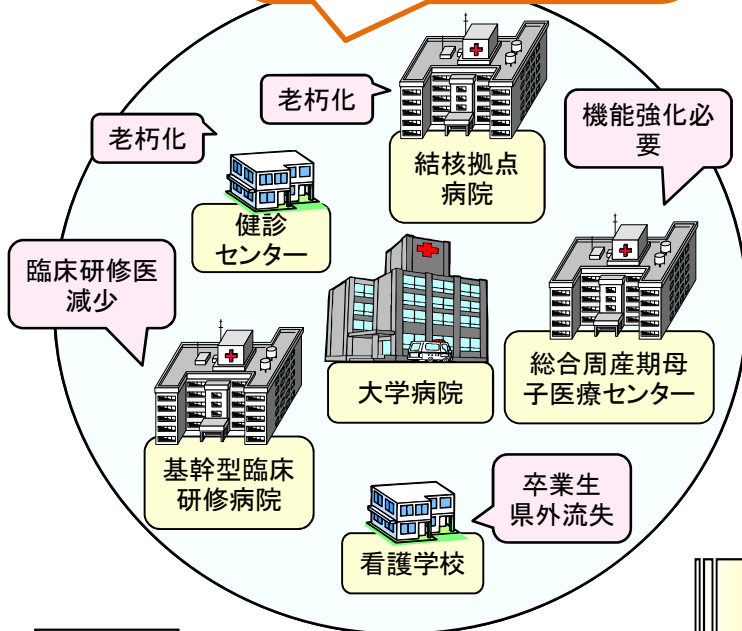


佐賀県地域医療再生計画(誰もが安心できる医療体制の構築)

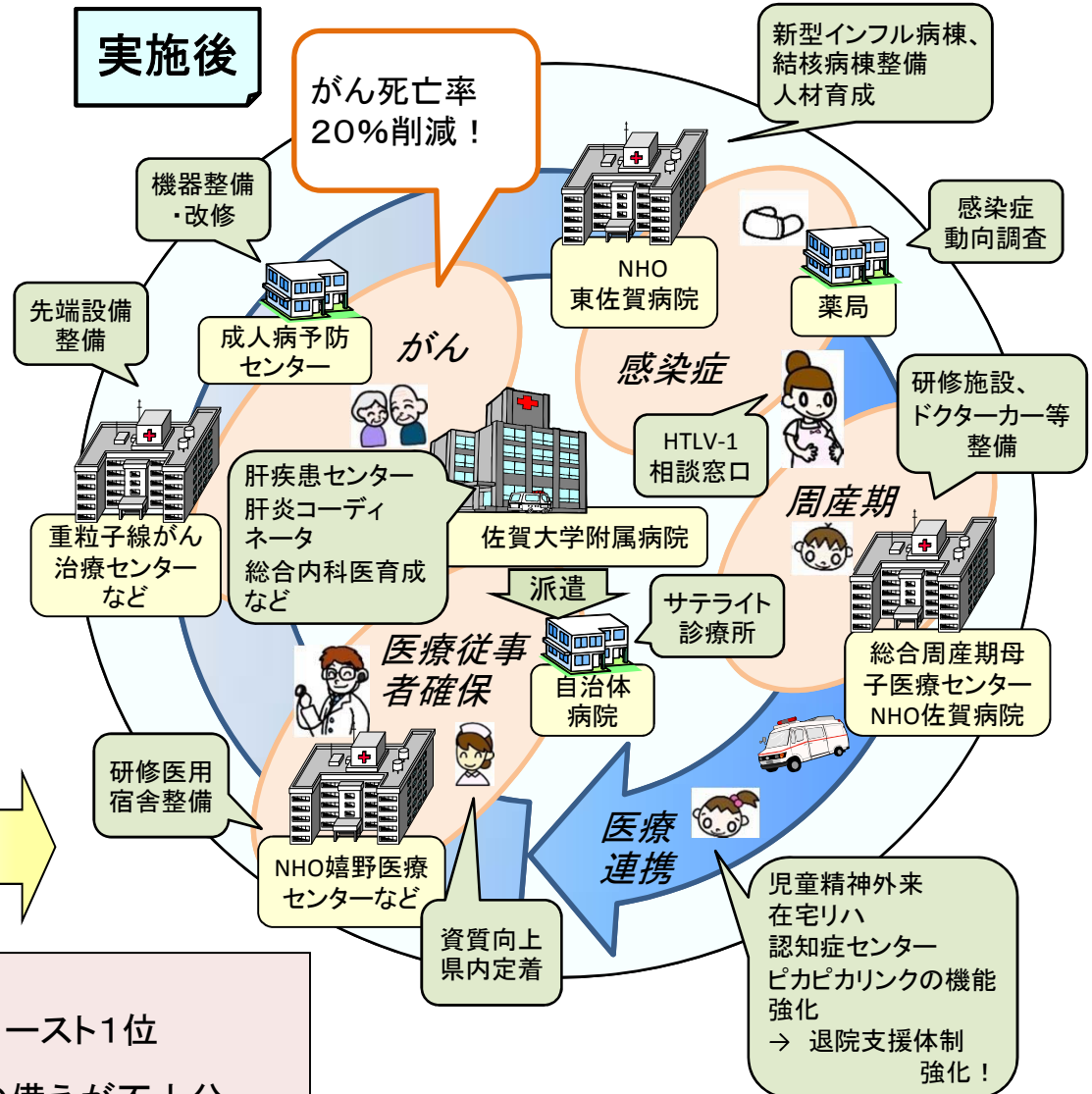
現状

・がんの死亡率が高い。
・肝がんの死亡率は、平成11年以降ワースト1位



実施後

がん死亡率
20%削減!



課題

- ① 人口10万人当たりのがん死亡率が、高い
肝がんの死亡率が、平成11年以降全国ワースト1位
- ② 結核や新型インフルエンザなど感染症への備えが不十分
- ③ 低出生体重児、極低出生体重児の増加
- ④ 医療従事者の偏在・不足

佐賀県における課題を解決する方策

課題を解決する方策

1 がん

課題	<ul style="list-style-type: none">・人口10万人当たりのがん死亡率が、全国と比べ、常に高い。・肝がんの死亡率は、平成11年以降全国ワースト1位。
目標	がんに対する予防、検診から最先端がん治療施設まで、がん対策を総合的に推進し、平成29年度までに、75歳未満の年齢調整死亡率を20%削減する。
対策	がん対策事業ほか3事業(15.22億円) がん対策事業は、 ①佐賀大学に寄附講座による肝疾患センターを開設し、人材を育成しつつ、肝炎ウイルス検査の強化、精密検査未受診者への勧奨を行うなど、効率的な肝炎・肝がん医療連携体制を構築するほか、 ②地域がん登録未実施医療機関へのシステム導入を図ることにより、地域がん登録のデータ精度を向上させ、 ③診断装置等を整備することにより、高度・専門医療機関の機能強化を図るもので、がん対策を総合的に推進するものである。

2 感染症

課題	<ul style="list-style-type: none">・結核は、集団発生や多剤耐性菌の検出などがあり、予断を許さない状況。・強毒性インフルエンザへの備えが必要
目標	中核医療機関(NHO東佐賀病院)の機能を強化し、感染症対策に万全を期す。
対策	結核医療の充実強化事業ほか3事業(3.29億円) (1)結核医療の充実強化事業は、NHO東佐賀病院の結核病棟を新築整備し、機能強化するとともに、県内留学制度により、結核医療を行える医師を育成するものである。 (2)新型インフル対応病棟整備事業は、NHO東佐賀病院に緊急入院病床を整備し、強毒性インフルエンザ発生時に備えるものである。

3 周産期医療

課題	・低出生体重児、極低出生体重児が、増加している。
目標	総合周産期母子医療センターの機能を強化し、医療を充実させる。
対策	総合周産期母子医療センターの機能強化事業ほか1事業(2.11億円) 総合周産期母子医療センターの機能強化事業は、NHO佐賀病院に研修センター、医療情報センターなどを整備した上で、県内医療機関等に開放し、周産期医療の総合的な研究を行うとともに、人材を育成するものである。

4 医療従事者確保

課題	・地域や診療科での医師の偏在が見られる。 ・初期臨床研修医が減少している。
目標	若手医師への良質な研修体制の提供等により、医療従事者の確保を図る。
対策	臨床研修医確保事業ほか3事業(2.49億円) (1)臨床研修医確保事業は、県内の全基幹型研修病院が連携し、魅力的な全県研修プログラムを作るとともに、研修医が身一つで研修先を移動できる宿舎を整備することにより、研修医の増加を目指すものである。 (2)総合内科医育成事業は、佐賀大学附属病院と同じ情報環境のサテライト診療所を自治体病院に設けた上で、佐賀大学から医師を派遣し、地域で総合内科医を育成するものである。

地域医療再生計画終了時の姿

地域医療再生計画に定める施策を実施することにより、県内の様々な医療課題の解決について中核となる医療機関の機能強化と医療機関相互の連携の強化が実現するため、医療資源の効率的活用が進み、佐賀県においては、将来にわたり持続可能で安定的な、誰もが安心できる医療体制が構築される。